

# 排出削減実績報告書

排出削減事業の名称：

DOWA IP クリエイション本社工場における  
工業炉の更新によるCO<sub>2</sub>削減事業

排出削減事業者名：DOWA IP クリエイション株式会社

排出削減事業共同実施者名：ES カーボンクレジット合同会社

その他関連事業者名：

## 1 排出削減事業者の情報

排出削減事業者	
会社名	DOWA IP クリエイション株式会社
排出削減事業を実施する事業所	
事業所名	DOWA IP クリエイション株式会社 本社工場
住所	岡山県岡山市築港栄町 7 番地
排出削減事業共同実施者（国内クレジット保有予定者）	
排出削減事業共同実施者名	ES カーボンクレジット合同会社
その他関連事業者（	
関連事業者名	

## 2 排出削減活動の概要

### 2.1 排出削減事業の名称

DOWA IP クリエイション本社工場における工業炉の更新によるCO<sub>2</sub>削減事業

### 2.2 排出削減事業の目的

本事業は、DOWA IP クリエイション株式会社 本社工場内における工業炉を更新し、燃料をC重油から都市ガスへ転換することにより、CO<sub>2</sub>排出削減を行うことを目的とする。

### 2.3 温室効果ガス排出量の削減方法

本社工場の工業炉の燃料をC重油から都市ガスへ転換することでCO<sub>2</sub>削減を行う。

### 2.4 国内クレジット認証要件の確認

排出削減量は承認排出削減計画に従って当該計画を実施した結果生じたものか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
排出削減量は承認排出削減方法論及び承認排出削減事業計画に従って算定されているか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ

### 2.5 承認排出削減事業計画からの変更項目

（個別項目の欄において具体的に記載すること。）

### 3 排出削減活動期間

#### 3.1 プロジェクト開始日

排出削減事業計画 4 項に沿って記載（計画から変更あった場合は、実際の開始日に変更して記載）。

2012 年 1 月 1 日

#### 3.2 モニタリング対象期間

（本報告における実績報告期間）

2017 年 10 月 1 日 ～ 2019 年 12 月 31 日

### 4 温室効果ガス排出削減量

#### 4.1 採用した排出削減方法論の情報

方法論番号	方法論名称
003	工業炉の更新

#### 4.2 活動量

排出削減事業が活動量指標を採用している場合、排出削減事業計画 5 項に沿って記載。

##### 4.2.1 活動量・原単位

対象	活動量	原単位
ベースラインエネルギー消費量	生産量 (t)	エネルギー使用量 (MJ/t)
		生産量 (t)

##### 4.2.2 活動量の採用根拠

工業炉におけるエネルギー消費量は生産量に連動することから、生産量を活動量として採用する。

#### 4.3 事業の範囲（バウンダリー）

本事業バウンダリーは、都市ガス供給設備からトンネルキルン工業炉(2号炉)までとする。

## 5 モニタリング対象指標

排出削減事業計画 7.1 項を参照して記載。記載内容に変更のある場合、変更理由を項目ごとに記載すること。

項目	定義	単位	実績値	モニタリング方法・ 根拠資料	(モニタリング方法に変更ある場合、) 変更理由
$F_{fuel,Pj}$	事業実施後の燃料使用量	$Nm^3$	2017年度：849,456 2018年度：1,673,811 2019年度：1,256,968	実測値	
GP	事業実施後のエネルギー原単位	MJ/t	2017年度：5,440.5 2018年度：5,213.5 2019年度：5,057.9	実測値	
GB	事業実施前のエネルギー原単位	MJ/t	2017年度：5,717.8 2018年度：5,731.8 2019年度：5,731.8	実測値	事業実施直前の2009年度～2010年度の二年間のエネルギー使用量と生産量から算出(モニタリング方法には変更なし)
$HV_{fuel,Pj}$	事業実施後の燃料の単位発熱量(都市ガス)	MJ/ $Nm^3$	2017年度：44.5 2018年度：43.6 2019年度：43.6	デフォルト値	
$CF_{fuel,BL}$	事業実施前の燃料の単位発熱量あたりの排出係数(C重油)	t- $CO_2$ /GJ	2017年度 ～2019年度：0.0741	デフォルト値	
$CF_{fuel,Pj}$	事業実施後の燃料の単位発熱量あたりの排出係数(都市ガス)	t- $CO_2$ /GJ	2017年度 ～2019年度：0.0513	デフォルト値	

## 6 排出削減量の計算

承認排出削減事業計画において採用した算定式に基づき、モニタリング対象項目実測値等を反映した計算結果を記入すること。

注) 複数の方法論を採用している場合は、方法論ごとに排出削減量の計算結果を記入すること。

### 6.1 事業実施後排出量

	活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
2017 年度	849,456	44.5	0.0513	1,939.2
2018 年度	1,673,811	43.6	0.0513	3,743.8
2019 年度	1,256,968	43.6	0.0513	2,811.4
単位	Nm <sup>3</sup>	MJ/Nm <sup>3</sup>	t-CO <sub>2</sub> /GJ	t-CO <sub>2</sub>
	EM <sub>PJ</sub>			8,494.4

### 6.2 ベースライン排出量

	活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
2017 年度	39,727.5	41.0	0.0741	2,943.8
2018 年度	80,233.3	41.1	0.0741	5,945.3
2019 年度	62,105.4	41.1	0.0741	4,602.0
単位	GJ	MJ/L	t-CO <sub>2</sub> /GJ	t-CO <sub>2</sub>
	EM <sub>BL</sub>			13,491.1

### 6.3 リークエージ排出量

	活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
2017 年度	0	0	0	0
2018 年度	0	0	0	0
2019 年度	0	0	0	0
	LE			0

### 6.4 温室効果ガス排出削減量

項目	記号	
ベースライン排出量 (7.2)	EM <sub>BL</sub>	13,491.1
事業実施後排出量 (7.1)	EM <sub>PJ</sub>	8,494.4
リークエージ排出量 (7.3)	LE	0
<b>温室効果ガス排出削減量</b>	<b>ER</b>	<b>4,996</b>

## 7 省エネルギー量

注) 複数の方法論を採用している場合は、表を追加して方法論ごとにエネルギー使用量を記載すること。

	原油換算 (kl)		
	ベースライン (①)	実績 (②)	ベースライン-実績 (①-②)
	C重油	4,826.7	4,388.9

省エネルギー量 (原油換算) = 437.9 kl

熱量換算及び原油換算において用いる換算係数については、エネルギー使用の合理化に関する法律 (省エネ法) 施行規則第 4 条に規定する換算係数を使用すること。

## 9 再生可能エネルギー利用量

なし

	モニタリング期間 ( 年 月 日 ~ 年 月 日 )			
	単位	エネルギー使用量 (実績)	熱量換算 (GJ) (実績)	原油換算(kl) (実績)